

令和 5 年度 一般選抜前期日程 経済学部 英語
出題の意図と解答の傾向

英語力を総括的に測るために指示、設問も全て英語による出題とした。

Reading Section

【出題の意図】

さまざまなコミュニケーション場面を想定し、一定以上のリーディング速度を保ちながらまとまった量の英文を処理する力を測ることを目的とした。具体的には、伝記、社会科学系読み物、e メールを 2 種類、会話文、告知文を出題し、試験全体の読解文の分量は比較的多めになっている。情報を保持しながら英文を読み進めて全体の要旨を的確につかみとる力、設問に対する情報を文書内から迅速に見つけ出す力、あわせて高等学校卒業程度の基本的な語彙力と文法力を見ることを意図して出題した。

題材の総数は、六種類、総設問数は、30 問とした。最初の問題は、労働関係の活動家の伝記を取り上げた。総語数が約 850 語、設問が 10 問あり、今年度の出題の中で最もボリュームの大きい問題である。長めの英文を正確に読み取り、設問に答える力を求めた。二題目は、社会科学系として動植物検疫探知犬に関する読み物を取り上げ、総語数は、約 600 語、設問は 4 問設けた。四題目は、アプリを紹介する番組の司会者とゲストとの会話文とし、語数は、約 350 語、設問は 5 問とした。これら二・四題目の出題は、文脈から状況や流れをイメージし内容を把握する力を問う問題を出題した。三題目と五題目は、いずれも e メールからの出題で、本文の語数は、それぞれ約 300 語、140 語、設問は、4 問、3 問であった。これらの e メールは、学生に身近なトピックとして、ボランティアの面接への応募文とインターンシップへのお礼文を取り上げ、メールの基本的な書き方のルールに沿って、メールの要点を読み取ることを求める出題とした。最後の六題目では、図書館の会員募集の告知文を採用し、設問は 4 問とした。告知文では、他の題材と同じ出題に加え、視覚的に提示された題材から情報を探して答える力を測る出題をした。

【解答の傾向】

全体の傾向としては、概要をつかみとりながら問いに対する情報を探しつつ、読解できていた様子がかがえた。題材や設問、ならびに選択肢の英文の長さやジャンルの影響は見られなかった。大よその傾向として、最も正答率が高かったのは、四題目のアプリ紹介番組の会話文で、六題目の図書館の会員募集告知文、一題目の伝記と続き、約 6 割以上の正答率であった。e メール（2 種類）と動植物検疫探知犬の問題の正答率は、約 5 割前後に留まった。

設問のうち、最も正答率が高かったのは、六題目の告知文の設問 28 で、視覚的に示された情報から、具体的な数字を選択する問題であった。続いて、一題目の伝記問題の設問 6 の文書全体の理解から正答を選択する問題で、いずれも多くを受験者が正解していた。出題の最初の一題目と最後の六題目、また、性質の異なる設問の正答率が高かったことから、受験者が全ての問題に取り組み、的確に情報を読み取っていたことが窺える結果となった。

一方、最も正答率が低かったのは、伝記問題の設問 7 で、解答選択肢に“All of the above”が含まれていたため、このフレーズの影響があった可能性が考えられる。次に正答率が低かった設問は、五題目のインターンシップへのお礼の e メール文の設問 26 で、本文中から「該当しないと思われる」情報を選択し解答する、というものであった。「該当しないもの」を選択する出題は、他にも 5 問あったが、それらの正答率は低くなかったことから、この設問の種類による影響ではないと推測される。設問 26 に正解する

ために求められる知識は、本文に使用された表現の言い換え表現を理解できる語彙力である。語彙力の広さと深さを向上させる学習が対策となる。また、動植物検疫探知犬に関する出題への正答率が低かったことを考えると、普段から広い視野を持ち、幅広い知識を持つように努めることも対策として重要であろう。その他の対策としては、英文を読んだり語彙の勉強をしたりする際には、定型表現や同義語などに注意して幅広い語彙力をつけるよう意識することが挙げられる。

Writing Section

【出題の意図】

身近なトピックについて、英文で論理的に述べる力を測ることを目的とした。近年広まっている電子書籍と従来の紙書籍について、どちらが好きか、自分の意見を論理性の高い理由や事例を挙げて支持しながら、100語程度の英文で述べることを求めた。また、英文パラグラフを書く際の基本的なルール、適切なフレーズの使い方を理解しているかどうかを見ることも意図して出題した。

【解答の傾向】

全体的に、つなぎ言葉を上手に使用し「主題文」「支持文」「結論文」の構成で書かれているものが多かった。主題文は、ほとんどの場合、明確に自分の考えを述べることができていた。問題文に“prefer”を使用していたため、preferを使用した主題文が多かったが、文法的な誤りとして、“I prefer to e-books.”、“I prefer paper books than e-books.”のような英文が散見された。

支持文は、主題文を支持する理由として、2つ述べているケースが最も多く、3つ述べているものは、ごく僅かであった。電子書籍を支持する理由としては、「軽くて持ち運び易い」「スマホでいつでも読める」「紙を使用しないので環境に良い」などが多く、「拡大できるので、子どもやお年寄りにも読み易い」という意見もあった。紙書籍を支持する理由では、「書き込みができる」「読み終えたら売却できる」「デバイスがなくても読むことができる」などがあり、また「紙の匂いが好き」「本棚に並べるのが好き」という意見もあった。これらが書けているものの、それを論理的な論じ方を用い、十分に説明できていないケースが多いのが目についた。主題文で述べた自分の意見を支持する理由をまず述べ、それを論理的に説明し、追加の情報として具体的な事例等を明確に述べることができるよう、論理的思考力、英語の表現力を鍛える必要があるであろう。

結論文は、主題文の“prefer”を“like ~ better than”や“love”に言い換えた程度の文が多く見られ、主題文と全く同じ表現で書かれているものも一部見られた。支持文で述べたことを踏まえ、包括的な結論文を自分の言葉で書くトレーニングをしてほしい。

つなぎ語や定型表現は、概して効果的に使用されており、無生物主語の文や使役動詞を使用した文（例：Reading paper books is ~./~~makes me happy.）などがうまく書けている答案も比較的多く見られた。その一方で、受動態の文法的誤りや基礎的な単語の綴りの誤り、つなぎ語の正確な使用ができていないケースも見受けられた。たとえば、つなぎ語の場合、“The first, ~~~”のような使用で、正しい使用は、“First, ~~~”あるいは、“The first ○○ is ~”である。つなぎ語や定型表現は、丸ごと使用される表現なので、しっかり学習し、精度を高めることを期待したい。また、ごく稀なケースではあるが、英文のパラグラフの書き方（論じ方）となっていないものがあつた。日本語とは書き方（論じ方）が異なるので、その点もしっかり対策してほしい。

令和5年度 一般選抜前期日程 経済学部 数学
出題の意図と解答の傾向

問題 1

【出題の意図】

問題 1 は、基礎的な小問を 5 つ用意した。いずれも高校数学では基本的な内容であるため、完答してもらいたいと思って出題している。(1) は重複順列の基本が理解できているのかを問う問題である。(2) は数が大きいいため素因数分解がすぐには思いつかないかもしれないが、テクニック等を用いて解いて頂きたい。(3) は絶対値を外す際に場合分けが必要なので、丁寧に場合分けして考察できるかを問う問題である。(4) は数列の問題だが、等差数列の一般式がわかっているのか、連立方程式を解けるかを問う問題である。(5) は整数問題で、論理的に考察して解答を導く力を問う問題である。

【解答の傾向】

基本的な問題であったため、全体的に平均点は高かったが、場合分けが不十分であったり、見落としがあった答案も多く、完答者は少数であった。基本的な考え方を習得した上で、より緻密に考察することが求められる。

問題 2

【出題の意図】

微分・積分に関する問題である。経済学部では特に微分は基礎的な経済学の講義でも必要な知識であるので、その基本が理解できているのかを問う問題にしてある。

【解答の傾向】

微分したうえで（接線の傾きを求めた上で）、点 A を通る 2 本の接線の方程式を求めることから着手すべきだが、その方針がまず立てられなかった解答も散見された。簡略的にでもよいので、図を書いてイメージする力も必要であったように思う。うまく方針を定めることができれば、あとは積分の計算を地道に行う計算力も必要である。積分をテクニカルに解いている答案もいくつかあった。

問題 3

【出題の意図】

指数関数に関する問題である。指数の計算は丁寧に扱わなければ間違いやすいものであるため、丁寧に解いていく力が必要である。また、(3) では特に文字に置き換えてその範

囲についても考えなければならない問題なので、しっかりと条件を理解しながら解いていく力を試す問題となっている。

【解答の傾向】

(1)・(2)は比較的正答率が高かったが、指数の扱いが雑な答案も多くあった。まずは指数の計算法則をしっかりと抑えていただきたい。(3)は様々な解答方針が見られたが、やはりポイントは相加平均・相乗平均の関係(等号成立条件も含む)を理解できているかであろう。相加・相乗平均の関係を使うことまでは分かっても、どう使ったらよいか分かっていない答案もあった。また、書いてある式の意味が採点者に伝わるように論理的に答案を作成することも意識してもらいたい。

問題 4

【出題の意図】

整数の性質に関する証明の問題である。集合と命題の性質も用いる。与えられた問いに対して、自ら方針を構想して論理的に証明する能力を問うている。

【解答の傾向】

完答やそれに近い答案と、ほぼ点数がない答案に二極化した。このような証明問題の場合、自ら方針を構想した上で、場合分けなどを適切に行い、論理的に証明するという総合力が求められる。訊かれた問に正しく正答するという能力だけではなく、上記のような総合力の涵養が求められる。